

友 和

NO.581

発行日 令和 7 年 9 月 1 日

発行 社会福祉法人 友和の里
〒 738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP : <http://yuuanosato.com/>

発行者 常務理事 中村 真和



入所部

夏まつり



8/20 (水) 入所部で夏祭りを行いました。ホップ、ステップ、ジャンプグループに分かれて、縁日のような出店を出しました。ホップグループは『射的屋』、景品のお菓子をもらって皆さんうれしそうでした。ステップグループは『わたがし屋』、白、青、黄色、緑、ピンクの5色の綿菓子を作りました。少しずつ食べる方や、ビックリするくらい早く食べられる方、それぞれ食べ方が違って新しい発見をすることが出来ました。ジャンプグループはジュース販売。コーラ、オレンジジュース、ブドウジュース、紅茶、コーヒー、カフェオレと6種類を販売、1番人気はコーラでした。利用者さん、ご家族の皆さん、そして職員みんなが笑顔で楽しく過ごせました。

※今回使用した綿菓子機は友和地区自治会等連絡協議会からお借りしました。ありがとうございました。
(生活支援員 高橋 正雄)

特集 **送迎**について
職員にききました

今月の特集は送迎について。友和の里は西は大竹市、東は広島市安芸区まで送り迎えをしています。片道46kmにもわたる送迎は開設当時から今日まで受け継がれています。

このたび職員10名にアンケートを行い、毎日、あたりまえのように繰り返されている送迎について調べてみました。職員による細やかな工夫や配慮、具体的な支援内容について紹介します。

送迎バス運転職員の声

運転業務を担っている職員の一人原田裕之はらだひろゆきさんは、利用者13名職員1名（添乗）を乗せて毎日朝夕にマイクロバスを走らせています。スタートは広島市安芸区船越から、なんと走行距離は約46キロ（片道）。運転時間は約2時間（片道）。運転業務中のあれこれを聞いてみました。

毎朝道路交通情報は確認してから出発している。何かしら交通渋滞などあれば13名の保護者全員に連絡をいれて遅延と到着時刻を電話連絡している。保護者の方やヘルパーと一緒に10分前には乗降場所まで待っている利用者のためにも定時に行けるようにしている。



ただし、先輩職員から「急ぐ必要はない」「安全が第一」と教えてもらっており、その言葉はいつも念頭においている。原田さんは日々、時間のプレッシャーと戦っている。走行中は会話は少なめで運転に集中。おしゃべりの嫌いな利用者さんもいるから、ただし交通情報は欲しいのでラジオはつけている。原田さんがこの業務についてから始めたのが毎日の清掃と金曜日の洗車。すっかり習慣になっている。清掃をすることで気持ちがいいし、運転する前の気構えのようなこと、気がひきまらることに繋がっているのかもしれないと教えてくれました。

大変な業務を担っている原田さん、早寝早起きすることで睡眠をしっかりとっていることなど、運転を担うための自分の体調管理も含めて送迎に対する心構えも聞くことが出来ました。

マイクロバスの椅子カバー

普段送迎にいかない職員八田真佐子はつたまさこさんが徐々にアーチェリー支援でマイクロバスに乗車した時、座席の破れが気になったそう。そこで家にあった布でカバーを作ってみた。破れや穴はあちこちにできていたので、ヘッドカバーだけでなく座布団も検討し座席にひいているそうです。こうした対策をすることで1か所の破れがどんどん広がるのを防ぐことにもなっていて、見た目もよくなったそう。「利用者さんも気持ちよく乗車できるのではないかと思う」と話してくれました。



※写真は手作りのヘッドカバー（実物）



安全な送迎を心がけています

通所部では毎日利用者の皆さんの送迎を行っています。送迎は一日の始まりと終わりを安心して迎えていただくための大切な時間となっています。天候や道路の状況に合わせてゆったりと運転して常に安全運転を心がけています。乗降の際には足元や段差を確認しサポートさせていただいたりしています。また短い時間ではありますが、保護者やヘルパーから利用者の様子を聞くことができる貴重な時間となっています。「今日は少し眠そうです」「朝から元気いっぱいです」などの情報は職員間で共有し支援に活かしています。これからも安心して乗車していただけるよう運転手と添乗員が協力し、安全で快適な送迎を続けていきます。（部長 乙原 亮）

安心と安全の送迎とは？

- ・道路交通法を再度見直しして業務についています。
- ・ドライブレートの運転でもより気をつけるようになりました。
- ・走行中の周囲の状況に気を配っています。
- ・後方に車がつくと路肩に寄って先に行ってもらいます。
- ・車間距離はしっかりとるようになっています。

いろいろな職員が運転業務を担っています。

マイクログラスを運転できる資格を持っている職員が15名います。

送迎5ルート
(市内線① 市内線② 大竹線 佐伯線 GH/FH線)

2025.9.1 現在

職員のおもい

・車中出来るだけイライラせず少しでも快適にバスの中で過ごして欲しい。

・静かに落ち着いて過ごしてもらいたい

車中の利用者さん 自分の世界

- ・突然、車内で利用者さん同士によるワンワンゲームが始まることあります。
- ・利用者さんそれぞれが座るシートはいつも同じ席に座ってもっています。同じ車窓風景を眺めながら、自分の空想の世界を作って楽しんでいる人もおられます。
- ・ツブリングを車内で流してみんなで聴くことがあります。

トイレ対応

- ・利用できるトイレの場所を事前に把握しています。公園や県庁など公衆トイレに寄ることが多いです。
- ・トイレの扉には「お断り」のステッカーを貼っています。
- ・携帯トイレも常備してあります。
- ・トイレを借りて落ち着いた環境で済ませることができるよう心がけています。

長い入で2時間、車中ですごくされています。トイレ行きたくなったらどうしていますか？

友和の里の顔

- ・何かあれば直接お伝えしたりコミュニケーションを保護者の方ととっています。
- ・「かわりありますか?」「どうですか?」などと保護者の方に一言声をかけています。
- ・安心して利用して頂けるよう笑顔で挨拶を行い、余裕があれば一言二言会話することを心がけています。
- ・保護者の方と直接話ができるいい機会になっています。直接会話することで、伝わり方が違ってきます。

ご家族やヘルパーさんから利用者さんをお預かりするときに、お話をすることがあります。

添乗

- ・突発的な行動には注意をしています。
- ・それぞれの特性を把握しておき、いつもと違う状況や様子の時は特に注意。利用者さんが行動する前に手を打てるように。
- ・遅延などあれば電話で保護者の方に連絡を入れています。
- ・利用者さんが落ち着ける工夫をすることがあります。

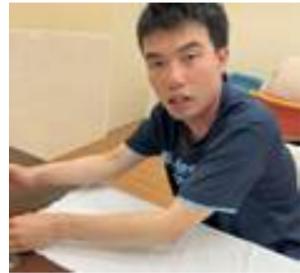
添乗手をサポートしながら車内を安全に見守っている添乗員

ご家族への連絡や何かあった時の対応も大切な業務です。

現在の送迎車合計6台
マイクロバス1台
ワンボックスカー5台



とうげいはん 陶芸班 利用者の皆さんが作り上げた干支の色付けを行いました。下準備から手伝ってもらい、きれいに色が付きました。近々注文販売用のカタログも作成する予定です。完成まで楽しみにお待ちください。(生活支援員 朝川 泰貴)



そうさくはん しん 創作班 申ノアさんは創作班の若手の職人さんです。ウエスを目の前に準備すると、ジッと眺め、どこから糸を取ろうか段取りを考えられます。糸を取る位置が決まると、ウエスに顔を近づけ1本1本丁寧に糸を取られます。糸をしっかり取りきるまで集中されれば完璧な状態でウエスを仕上げしてくれる職人さんです。また、この8月1日にお誕生日を迎えられました。おめでとうございます。これからも創作班の若手の職人さんとして一緒に頑張っていきましょう!! (主任生活支援員 山田憲志)



かいとお ほん 貝通し班 8月も皆さん貝通し作業をコツコツとこなしておられます。貝を通し終わったら、「できたよ」「できた!」「できました〜」と様々な声掛けで教えてくださいます。最近、貝通し棟に地域の方や新規利用希望の方の見学者が増えてきています。見学された方に貝通し作業の魅力を知っていただける機会として嬉しく思っております。(生活支援員 冠 茜)

りょういくはん 療育班 8月に入り、貝通し作業用のゴム入れ作業がひと段落し、現在は運動やぬり絵などの利用者の皆さんが楽しみながら参加できる活動を行っています。和やかな雰囲気の中で、笑顔あふれる時間を過ごされています。(生活支援員 濱田 吉弘)

廿日市市社会福祉協議会主催 令和7年度福祉施設相互研修

研修先：あいあい作業所
研修者：堂面なみ(友和の里入所部 生活支援員)

利用者さん皆さんが話しかけてくださり、楽しくて一日があっという間でした。職員の皆さんの利用者さんへの気遣いや細やかな心配り、利用者さんひとりひとりに寄り添った支援をされていました。作業はずっと同じ仕事が続かないように、休憩後は違う作業に移れるように考えられているんな事ができるように工夫されていました。

友和の里からも複数の職員が他施設へ研修へいき、学んでいます。今回はその研修報告をご紹介します。

研修先：広島西こども発達支援センターくれよん
研修者：冠茜(友和の里通所部 生活支援員)

元気に動き回る子供たちと過ごすことは、体力勝負だと思いました。少し目を離すと蹴ったり叩いたり、異食するなど。そんな中でも職員の皆さんは、冷静に対応し、明るく元気いっぱい子供たちに接しておられ、話しかけやすい雰囲気が常にあり、参考になることばかりでした。そんな職員さん達だからこそ、子供たちは明るく笑顔があふれているんだろうと感じました。職員間で声を掛け合って連携がしっかり取れている場面が多々あり、大変参考になりました。

広原山たより その13



裏山の遊歩道を歩き、若く緑色の栗や柿の実を見て、次の季節を身近に感じています。

いよいよ今月から第3グループホームの建設が始まります。グループホームの名前は「ハピネスゆうわ」としました。友和の里の理念「友和の里につどう すべての人々が ともにまなび ともに成長し ともにしあわせになることをめざします」の目的の部分、「しあわせになること」=ハピネスから命名しました。

2棟目のフレンドホームゆうわは、友和の里の「友」=フレンドから取ったと言えます。1棟目のグループホームゆうわは、グループ=集まり=友和の里に「集う」からつけたと、言えないことはありません(ちょっとこじつけっばいですが)。

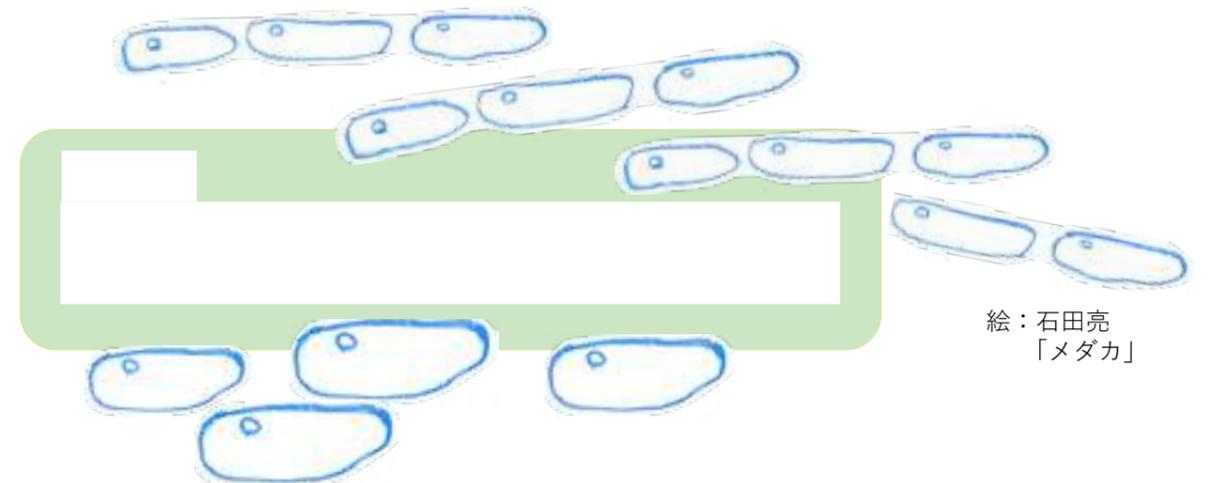
廿日市市では令和7年3月、第4次廿日市市障がい者計画が策定されました。障がい者計画は障害者基本法第11条第3項を根拠に、障害者施策の基本的方向性について定める計画です(市同計画書から)。第3次同計画の基本理念「全ての市民が、障がいのあるなしに関わらず 等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として 相互に人格と個性を尊重し合いながら 共生する社会の実現」、基本目標「ひとりひとりが笑顔で暮らせるまちはつかいち」を引き継ぎ、施策の展開が計画されています。



市障がい者計画の基本構想と友和の里が掲げてきた理念と照らし合わせてみると、「すべての人々がともに=すべての市民が障害のあるなしに関わらず~共生する=ひとりひとりが」や、「しあわせになることをめざします=尊重し合いながら共生する社会の実現=笑顔で暮らせるまち」と読めます。私たち友和の里の理念を実現していくことは、市障がい者計画の基本構想を実現すると同じ意味になると、思いを新たにしました。

春には第3グループホーム「ハピネスゆうわ」がスタートします。物価の高騰、人材確保の困難さなど大きな課題もありますが、新たな若い事業の始まりとその継続のためにも体制の充実に努めてまいります。引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。

(常務理事 中村 真和)



絵：石田亮
「メダカ」

トピックス

フレンドホームの夏といえば

【中庭のミニトマト】

今年もフレンドホームの中庭でミニトマトを育てました。利用者さんと職員とで一緒に水やりをしてきました。赤く色付いた立派な実がなりましたので、休みの日の朝、摘み取りをしました。見ていると、慣れた手つきで上手に摘み取る人、おっかなびっくり摘み取る人などいて面白かったです。そしてお昼ご飯にみんなで食べました。朝摘みのミニトマト美味しかったね。

(生活支援員 寄尾 博孝)



グループホームの朝の風景 【ラジオたいそう】

起床後、更衣や整容を終わらせ一息ついたところで、ラジオ体操の曲を流します。主に食堂やリビングの空きスペースで、それぞれに合った形で参加されます。リズムに合わせてオリジナルの体操をされる方、「イチ、ニ、サン、シ・・・」と声を出しながらされる方、すこし離れた所でされる方、色々です。体操が終わると「今日も頑張ろ〜！」と声を掛け合っ、思い思いの行動に移られます。

ラジオ体操の第1(第2も)は、13種類の運動があつて、たった3分間の体操でもそれらの動きをきちんとやると全身600前後の筋肉のうち400ほどが刺激されるそうです。運動不足の解消のため、日々の健康のため、続けることで良いことがありますね。(主任 須藤 洋子)



入所部アートレンタル事業 【あーとレンタル】

ダイハツ広島販売大竹店へ作品の展示入れかえに行ってきました。一緒に作者である西田亨也さんも同行。挨拶をして店内に入ると、作品は自動販売機横に展示することになっていました。西田さんは作品よりもどちらかというところが気になる様子でした。今回アートレンタル用にシルバーグレイの額縁を購入しました。新しい額はマット紙の余白の効果もあつて、作品がさらに引き立ちます。西田さんらしい筆の勢いのある絵を堂々と展示できました。



(主任 甲斐 真由美)

夏越しあれこれ 【みずやりのこと】

今年の春、友和の里をさらに色どりよくみどり豊かにするという計画のもと、サクラやモミジの木など計20本を新たに植樹しました。苗木はまだ小さいので、水やりをしています。雨が少なかった7月末から9月末までは計画表を作って作業を分担しています。時おり入所部の市場さんや堀江さんにも手伝ってもらっています。水やり専用の押し車に水をいれて運びます。この車、カーブは工夫が必要で、タイヤを浮かして方向転換するのですが、これができるのが市場さんです。彼は水やりの最中はそんなに楽しそうに見えませんが、「水やりいく？」と声をかけるととってもいい笑顔を見せてくれます。助かっています。



(ヒューガノリコ)

グループホームの地域交流

【岩組夏まつりに参加して】

8/23 グループホームの皆さんと地域の岩組なつまつりに参加させて頂きました。実は皆さんの一番の楽しみは、「屋台のメニューに何が出店されるか」という事で、事前に頂いたチラシを見ながら、「これにしようか」とまつり前にもワクワク感を楽しまれました。当日はかき氷やフランクフルトなど夏らしいメニューを堪能され、気分も盛り上がったところで、RED ☆ EYE のスペシャルライブがありました。ステージを見ながら曲に合わせて手を振ったり手拍子を打ったりさらにはスタンディングオベーションを送る利用者さんの姿がありました。夏の夕方の時間を地域の方と一緒に楽しむことが出来ました。



岩組地域の方には、あらかじめ入居者の皆さんの席を確保して頂くなど、ご協力頂いて大変助かりました。ありがとうございました。

(部長 川久保 貴子)

通所部 土曜開所日 【夏まつり】

8月の開所日は『夏祭り』を行いました。利用者の皆さんが思いっきり楽しんでいただけるよう、釣り・射的・キックゲーム・お手玉つかみなどたくさんのゲームを準備しました。皆さん一人ひとりが自分のペースでチャレンジされました。ゲームをしている利用者も待っている間に応援している利用者も皆さんの楽しそうな声がホールに広がっていました。職員も大きな声で応援する場面が見られ、ホール内は大盛り上がりでした。普段の活動とは少し違った体験を通して、夏祭りを楽しんでいただけたことを嬉しく思います。9月の開所日は『運動会』をする予定となっています。多くの方の参加をお待ちしています。



(生活支援員 井場 孝行)

令和7年度第1回虐待防止研修

8月6日(水)に、「あなたのケアは大丈夫? ~その行動なれていませんか?~」というタイトルを掲げ、友和の里全職員を対象とした虐待防止研修を行いました。

今回は広島市内にある「デイサービスそうら」の代表をされておられる「植 賀寿夫(うえかずお)」先生を講師としてお迎えしました。植先生は経営者でありながら今でも現場でご活躍されており、実際にご自身がこれまでに経験された出来事や失敗したエピソードなどをたくさん話して下さいました。

一見不適切に見えるケアも、「どうすれば適切なケアに変えられるか」というポジティブな視点を持つことで改善に向かっていくこと。また、個人の「こうあるべき」という思いが怒りを生むため、普段から自分とは違う価値観を聴くこと、知ることの大切さ。さらに、行動の指針を職員間で共通認識として持つことの重要性などを教えて頂きました。



研修の準備を進める中で意識したのは、敢えて難しい言葉を使わず親しみやすいタイトルにすることや、職員それぞれの価値観の違いを知ることでした。また、前回の研修後に実施したアンケート結果を踏まえ、アンガーマネジメントについて学べる要素を取り入れることにしました。

今回の研修を通じて「自分も完璧な人ではないけれど、利用者さんやそのご家族、そこで共に働く職員にとって、より良い場所にするためにはどうすべきか。」という対人援助職に携わる者としての姿勢を強く学ぶことができました。植先生には本当に感謝申し上げます。

(生活支援員 香川 剛司)

9

ゆうわ さとぎょうじよてい 友和の里行事予定

- 9/9 火 お楽しみ会 (入所)
- 9/10 水 工賃支払日 (通所 / 入所)
- 9/10 水 体重測定 (入所)
- 9/12 金 アート活動 (入所)
- 9/12 金 夕食会 (GHFH)
- 9/12 コロナワクチン (入所)
- 9/19 金 アート活動 (入所)
- 9/19 金 衛生の日 (通所)
- 9/20 土 土曜日開所日 (通所・入所)
- 9/25 木 日帰り旅行2グループ(入所)
- 9/26 金 日帰り旅行 (通所)
- 9/28 日 訪問美容 (GHFH)

いどう
水曜日移動スーパー

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

GHFH グループホーム

にゅうしょ (入所)

つうしょ (通所)

アーチェリー

寄付のご紹介

飛田紀代子さま

たくさんのご寄付を賜り
厚く御礼申し上げます



ひがえり

りょこう

今月のおたのしみ
— 日帰り旅行 —

9月26日(金)に通所部では下関へ行く予定です。場所は海響館(下関市立しものせき水族館)です。大型バスに乗っていきます。利用者・保護者・職員が、一緒に過ごせるいい機会です。長旅になります。心身のリフレッシュを円れるお出かけになりますように。入所部も25日(木)に呉に行く予定になっています。楽しんでいきます!

今月のうれしいな～

いつの頃からでしょうか?
コミュニティーハウスの入口に
花が活けてあります。
焼物のツボに数種類の花が飾られています。
近所に暮らす平岡章子さん
以前は友和の里の役員さんをされていました。
お話をきかせてくださいとお願いすると
「花が好きで、庭にある花を飾っています」と
教えてくれました。始めたきっかけを聞くと
「友和の里を地域の人々が知るきっかけになったら」と
思って始めました」と教えてくれました。

平岡さん、いつもありがとうございます。
※コミュニティーハウス(廿日市市友田 644-5)



おまけ info.